



- 1) 日本頭痛学会理事 古和 久典 先生よりご寄稿
- 2) 第 51 回 日本頭痛学会総会 演題募集のご案内
- 3) アミトリプチリン塩酸塩錠『トリプタノール®錠』の限定出荷への対応について
- 4) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します



## 1) 日本頭痛学会理事 古和 久典 先生よりご寄稿



### 『片頭痛 2.0』

国立病院機構松江医療センター 古和 久典

トリプタンのドラッグラグが約 10 年あり、参加した国際頭痛学会の展示会場を歩いている「日本では未承認」という何とも言えない疎外感を味わったことを思い出しますと、FDA 承認から 2～3 年のラグを経て、2021 年より 3 種類のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(calcitonin gene-related peptide; CGRP) 関連抗体薬が本邦で登場しましたことは、隔世の感を禁じえません。

片頭痛診療はパラダイムシフトを経て新たなステージを迎えたことを、日本頭痛学会の先生方の多くは実感されていることと思います。このような状況を個人的(=自分勝手)に『片頭痛 2.0』と呼称しました。既に言われていることですが、広義にはトリプタン開発までの血管拡張を原因とする病態仮説に基づいて血管収縮作用に着目していた治療モデルから、CGRP などの片頭痛発作の疼痛症状において主たる役割を果たしていると考えられる物質やシグナル伝達に対処した新たな治療モデルへとバージョンアップしたと捉えたことがその理由です。

トリプタンが上市される前後、あるいは上市を契機として、片頭痛に対する関心が高まるとともに、基礎および臨床研究の成果がより一層蓄積され、病態解明が進み片頭痛を含めた頭痛診療が大きく変化したという認識を持っています。今回も CGRP 関連抗体薬やラスミジタンの使用経験が増える中で、抗体薬は前兆や予兆に対してどのような効果をもたらすのか、responder と non-responder の相違点は何か、non-responder では CGRP の関与が異なるのか、抗体薬の上手なやめ方(休薬)はあるのか、など多くの疑問点が指摘され論じられるといった変化がすでに起きており、その一部は報告がされ始めています。研究や臨床面でさらに発展

し、その成果が診療現場へ還元されていくことを願ってやみません。

日本ではこれから登場するといわれている CGRP 受容体拮抗薬(gepant)が加わることによって、急性期頓挫療法、予防療法の選択肢が増え、単に薬価から選択するのではなく、片頭痛の病態や患者さんの生活様式を踏まえて、より適切な治療薬が選択できるようになるかもしれません。また、種々の併用療法に関するメリットやデメリットも蓄積されていくことでしょう。『片頭痛 2.0』の治療状況が均霑化され、片頭痛の診療や研究がなお一層進展し、次のパラダイムシフト、すなわち『片頭痛 3.0』が迎えられるよう、日々の頭痛診療に精進していかなければなりません。日本頭痛学会の更なる発展のために、会員の先生方の一層のご活躍とご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 2) 第 51 回 日本頭痛学会総会 演題募集のご案内

今年度の日本頭痛学会総会は横浜で 12 月に開催されます。5 月 10 日より一般演題募集が始まっております(締め切り:7 月 19 日)。多くの皆さまのご応募・ご参加をお待ちしています。

1. テーマ:「革新的進歩がもたらす最新の頭痛医療を患者さんのもとへ」
2. 会期: 2023 年 12 月 1 日(金)・2 日(土)
3. 会場: パシフィコ横浜 会議センター (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1)
4. 会長: 山元 敏正 先生 (埼玉医科大学 脳神経内科 教授)
5. 総会 HP: <http://jhs51.umin.jp/abstracts.html>

※総会の概要や最新情報については、第 51 回 日本頭痛学会総会ホームページをご参照ください。

## 3) アミトリプチリン塩酸塩錠『トリプタノール<sup>®</sup>錠』の限定出荷への対応について

アミトリプチリン塩酸塩錠『トリプタノール<sup>®</sup>錠』は片頭痛や緊張型頭痛の予防薬として用いられる重要な薬剤ですが、現在限定出荷となっており供給不足が続いています。それに伴い、日本頭痛学会診療向上委員会では代替薬の提案を公開しています。ぜひご一読いただき診療にご活用ください。

- [日医工株式会社製造販売三環系抗うつ剤 日本薬局方 アミトリプチリン塩酸 塩錠『トリプタノール<sup>®</sup>錠 10/25 』の出荷量半減への対応について](#)

## 4) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します

- [小児・若年成人期の頭頸部 CT 検査による放射線被曝後の悪性脳腫瘍発症について:EPI-CT コホート研](#)

## 究結果より

Hauptmann M, et al. Brain cancer after radiation exposure from CT examinations of children and young adults: results from the EPI-CT cohort study. Lancet Oncol 2023; 24:45-53.

掲載日:2023/02/22

- 片頭痛非発作期の頭部アロディニアの有無によるガルカネズマブ有効性予測

Ashina S, et al. Pre-treatment non-ictal cephalic allodynia identifies responders to prophylactic treatment of chronic and episodic migraine patients with galcanezumab: A prospective quantitative sensory testing study (NCT04271202). Cephalalgia. 2023 Mar; 43(3):3331024221147881.

doi: 10.1177/03331024221147881.

掲載日:2023/03/03

- IT 企業で施行された 7 万人を対象にした頭痛疫学調査と治療介入効果

Sakai F, et al. Diagnosis, knowledge, perception, and productivity impact of headache education and clinical evaluation program in the workplace at an information technology company of more than 70,000 employees.

Cephalalgia. 2023 Apr; 43(4): 3331024231165682.

doi: 10.1177/03331024231165682.

掲載日:2023/04/13

- CGRP 関連抗体薬が慢性片頭痛患者の血清 CGRP 濃度に与える影響

Gárate G, et al. Serum Alpha and Beta-CGRP Levels in Chronic Migraine Patients Before and After Monoclonal Antibodies Against CGRP or its Receptor.

Ann Neurol. 2023 Apr 11. doi: 10.1002/ana.26658.

掲載日:2023/05/02

【日本頭痛学会 広報委員会】

ニュースレターに関するご意見, 問い合わせは <[jhs-office@shunkosha.com](mailto:jhs-office@shunkosha.com)> までお願いいたします。